
コンサルテーションで見えてきた 強度行動障がい支援のまずはここ！

自閉症教育・支援コンサルタント みずの あつし 水野 敦之
(入所施設サポート コンサルタント)

穴原荘、わらしな学園の2施設がサポート事業で
コンサルテーションを続けてきた中で、良い効果が
少しずつ増えてきています。

「なぜ効果があがるのか？」という視点を紹介
します。

▶▶ 冰山モデルの視点で整理する

気になっている行動に対する介入でまずやるべきではないのは、その行動に対して思いつきや勘で支援することです。もっと怖いことは気持ちや感情で支援することです。思いつき、勘、気持ち、感情での支援は、良い方向にいかないだけではなく、合理的配慮から遠い支援になり、さらには虐待へのリスクが高まります。

そうならない支援のためには、**チームで共通のフレームワーク（考える枠組み）を持つことが大切です**。そこで出てくるのは**冰山モデルの視点**です。

冰山モデルの視点は、自閉症の人、強度行動障がいになっている人の行動を冰山の一角に置き換え、**その行動に着目するのではなく水面下の要因に着目していく**ものです（38ページ参照）。

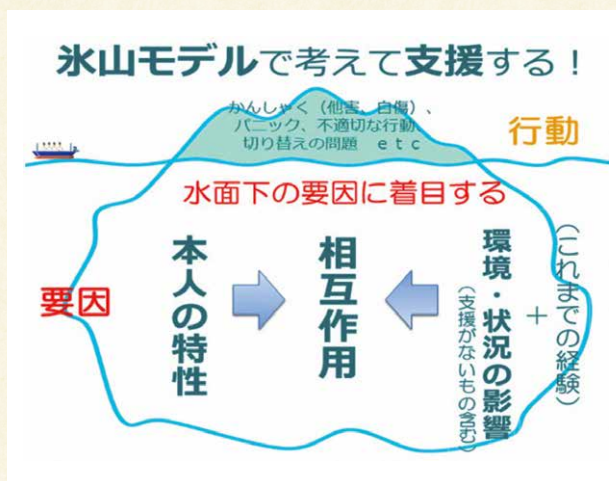
書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』※11では、瞬時にまたは計画的に、その行動の背景になる要因である『本人の特性』や『環境要因』、『本人の気づき』などから困難さを補う支援と本人に合わせた環境調整を計画し実施し、さらに調整していくことを冰山モデルシート（39ページ参照）で進めることをおすすめしています。

この事業でのコンサルテーションでは、冰山モデルシートを活用して、上記の要因を整理することをやっています。書き出すことのメリットは2つです。

1つは、考察、整理がしやすくなることです。もう1つ大きいのはイメージしていない要因やその時点でない本人の情報（例えば、本人が何によって終わりを理解するか？）がわかることです。

書き出さない支援は、やはり思いつきで実施し、必要な情報のアセスメントをしないまま計画を立ててしまいます。

冰山モデルシートを使えば、すぐに解決策が見えていくわけではありません。継続的にシートを使ってアセスメント、計画と調整を続けていきます。



※11 書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』 水野敦之著／エンパワメント研究所

冰山モデルで考える自立支援と行動支援

(要因になる特性 × 環境・状況 × 気づき・記憶)

自立が難しい・般化が難しい

課題になっている行動・考え方

【要因となる環境・状況】

- **様々な状況の変化**
 - ・ 予定、人、物の配置などの変化
 - ・ 習慣になっていることの変化
 - ・ 今まであったものが無くなる など
- **影響を与える刺激や情報**
 - ・ 様々な刺激がある
 - ・ 様々な情報が見える・聞こえる
 - ・ 複雑でわかり難い指示・情報
 - ・ 複雑でわかり難い環境
 - ・ 関係のない刺激や情報 など
- **必要な支援がない**
 - ・ 必要な指示がない
 - ・ 終わり等が提示されていない
 - ・ 見通しが提示されていない
 - ・ 本人にあった指示ではない
 - ・ 注目できにくい指示になっている
 - ・ 環境が整理されていない
 - ・ 物や本人の場所の提示がない
 - ・ 代替コミュニケーションがない
 - ・ 刺激が統制されていない など

【要因となる自閉症の特性】

- **受容コミュニケーションの特性**

言語指示の理解の困難さ、字義どおり理解する、言語指示を整理してつかむことができない など
- **表出コミュニケーションの特性**

無言語、エコラリア^{※12}、声の調子やリズム、意思交換の困難さなど
- **社会性・対人関係の特性**

一人であることを好み、アイコンタクトやジョイントアテンション^{※13}、セオリ・オブ・マインド^{※14}の困難さ、自発的にかかわりをもつことの困難さなど
- **転導性・衝動的な注意・注目の特性**

転導的・衝動的な行動、切り替えの困難さ注目することの困難さなど
- **時間の整理統合の特性**

日程の計画や調整、活動や手順の調整、実行機能の困難さなど
- **空間の整理統合の特性**

自分の位置や材料や道具の位置の調整、1つの場所の多目的利用の困難さなど
- **変化の対応の特性**

場所、物、人、予定、習慣の変化の不安・抵抗、強迫的な行動、ルーティンの必要性など
- **般化の特性・関係理解の困難さ**

習得したスキルや人や物への対応を他の場面、違う文脈で状態が変わる。材料・場面・指導者が変わったときに課題を遂行できない。関連づけしすぎる、自己流の解釈、字義どおりの解釈、絵などを具体的にとりすぎる。など
- **記憶の維持の特性**

短期記憶・作業記憶の維持の困難さなど
- **長期記憶の特性**

長期に脳に維持される記憶、経験した記憶が消せない特性など
- **感覚の特異性**

視覚刺激、聴覚刺激、味覚刺激、嗅覚刺激、触覚刺激などによる反応、または鋭敏さ、鈍感さ など
- **微細運動・粗大運動**

手と目の協応の困難さ、手先の不器用さ、緊張のある動き、柔軟さのない体全体の動きなど

【要因となる本人の気づき・記憶】

- **習慣になっているものがある**

いつもと同じ流れ、習慣があり修正が難しい内容。例えばパターン化された生活になって変更が難しいこと
 - **自分流の気づき・考え方をもつ**

物事の関連付けやルールなどを自己流で解釈している内容
 - **過去に経験したことや学んだことを修正できない**

過去の体験や人から教えてもらったことで修正が難しい内容
 - **過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感がある**

過去の経験を思い出しパニックになったり、混乱や恐怖・嫌悪感による様子が見られる など
- ※ フラッシュバックもこの項目に入ります
※ 誤学習した内容もこの部分に入ります。

相互作用

影響

指導・支援計画

- ・ 本人が理解できる視覚的な情報で伝える
- ・ 本人が学習・活動しやすい環境設定にする
- ・ 影響をうけている刺激・情報を統制する
- ・ 場所、課題の境界を明確にする
- ・ 生活シナリオの見直しをする
- ・ 情報の量を調整する
- ・ 情報を整理して伝える
- ・ 見通し、終わりなどを視覚的に伝える
- ・ 材料や道具を容器などで整理して提示する
- ・ 代替コミュニケーションやリンマインダーを準備し教える
- ・ 経験させないように工夫する
- ・ 他の活動を充実させる
- ・ 習慣を活用する
- ・ 機会を設定する
- ・ 自分の考えや他の人の考えを表にして整理する など

活用する・参考にする

【活用できる資源】

- **すでに活用している手だて**

エリアの設定、スケジュール、手順書など
- **活用しているサービス、事業所**

療育機関の利用、通院場所、福祉サービス など
- **学校や事業所で活用できるエリア・設定**

1対1の勉強のエリアがある、現場実習先がある など

【活用できる本人のスキル】

- **理解できている情報(具体物・写真・文字など)**

具体物、写真、絵、単語、文字、色、形 など
- **持っている概念**

フットイン、1対1の対応、回数、時間、お金など
- **持っているスキル**

日常生活動作、道具の使い方、職業スキル、余暇スキル など

【活用できる本人の気づき】

- **身についた習慣がある**

終わりの・first~then~の習慣、ルーティンの活用ができる など
- **学んでいる情報、知識**

知っている意味や概念、情報 など
- **他でも活用できる本人の考え方**

他人の物は許可を得てから使う など

参照資料：『フレームワークを活用した自閉症支援』／水野敦之 著・エンパワメント研究所

※12 **エコラリア** 反響言語。他者が話した言語を繰り返して発声すること。

※13 **ジョイントアテンション** 共同注意。他者と同じものに注意を向け、情報を共有・伝達すること。

※14 **セオリ・オブ・マインド** 心の理論。前後の流れ、周囲の状況、言語、非言語コミュニケーションによって、相手の気持ちを推測すること。

氷山モデルシート (WS009) Ver.2 +ガイド付き

氏名：	日付： / / ()
記録者：	
行動目標：	

課題になっている行動（気になる行動）

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
<input type="checkbox"/> 様々な状況の変化 <input type="checkbox"/> 影響を与える刺激や情報 <input type="checkbox"/> 必要な支援がない <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 行動前の状況 <input type="checkbox"/> 行動後の状況・結果 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 受容コミュニケーションの特性 <input type="checkbox"/> 表出コミュニケーションの特性 <input type="checkbox"/> 社会性・対人関係の特性 <input type="checkbox"/> 全体よりも細部に注目する特性 <input type="checkbox"/> 時間の整理統合の困難さ <input type="checkbox"/> 空間の整理統合の困難さ <input type="checkbox"/> 関係理解（意味理解）・般化の困難さ <input type="checkbox"/> 想像思考の困難さ <input type="checkbox"/> 変化の対応の特性 <input type="checkbox"/> 感覚の特異性 <input type="checkbox"/> 微細運動・粗大運動 <input type="checkbox"/> 記憶の特性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 習慣になっているものがある <input type="checkbox"/> 自分流の気づき・考え方をもつ <input type="checkbox"/> 過去に経験したこと学んだことを <input type="checkbox"/> 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき

支援計画 <small>※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります</small>		
環境を変える部分は？	本人の特性にあわせた支援は？	本人に伝える・教える部分は？

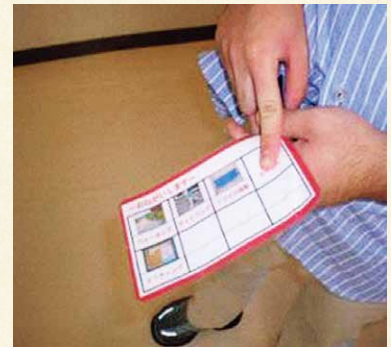
実施後の記録		
日時	本人の様子	再構造化・再計画の指針

※書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』（104～105頁）を参考に記入してください。 検索「自閉症 フレームワーク」

▶ 個別化したコミュニケーションの計画

多くの自傷や他害などの課題になっている行動は、受容コミュニケーションと表出コミュニケーションの困難さが要因としてあげられます。※そうでないものもあります。

周囲の状況と見通しを本人が理解できる形で伝える受容コミュニケーションのサポート、また本人に合わせた**自分の気持ち、情報を伝える方法を準備する表出コミュニケーションのサポート**が必要になります。まずは、ここからです。本人にあった環境にあわせて、本人の理解できる見通しと本人の気持ちを伝える方法を準備し教えることが具体的な行動支援の第一歩になります。



▶ 見通しのある具体的な活動の設定

行動支援で構造化などの支援や環境設定は大切になります。しかし、それは前提であり、土台であり、補助具でもあります。構造化や環境設定だけでは、おそらく行動面の課題は解決しないと考えます。

どんなに視覚的なスケジュールやTODO表示、活動の手順書があっても、それを使って伝える生活内容、つまり具体的な活動が無いと意味がありません。

具体的な活動の設定でまず浮かぶのが、本人の興味関心から始めることです。しかし、多くの支援者が興味関心から始めてもうまくいきません。興味関心がそもそも見つからないと、そこから発展することが難しいのです。

今回、この事業でコンサルテーションをさせていただいた2つの施設では、興味関心にこだわらず、**様々な活動のアセスメントから本人の『できる部分』を活用し、もう少しいける部分は構造化を活用して教える実践**をしてもらいました。結果、目で見えてわかる形で以前よりも活動の広がりがでて、そして行動面での安定につながっています。

▶▶ 境界の明確化は自信を持った行動につながる

今回の事業でのコンサルテーションで繰り返しアドバイスさせていただいたのは、**境界を明確にすること**でした。どこからどこまでが関係のある部分でどこからどこまででは関係のない場面かという空間の境界（**空間の整理統合**）、今の活動はこれで、この後はこれという時間の境界（**時間の整理統合**）、これらを明確にすることが見通しをもった行動と自立につながることは2つの施設の実践を見るとわかります。

境界が不明瞭であれば、見通しを持ってないし、自信をもってできません。境界があれば自信を持ちますし、自立的な行動とその広がり(QOLの広がり)につながります。

▶▶ チームの協働を支える明文化とフレームワーク

支援チーム間で重要なことは、**アセスメント内容と支援の方向性を共有**することです。そこが揺らぐとチームでの支援がうまくいきません。本人に混乱を与えます。アセスメント内容と支援との共有は口頭での伝達では不可能です。そこに視覚的な媒体が必要になります。**支援チームでの構造化、視覚的支援が必要**です。

今回の事業での2つのコンサルテーションでは、**フレームワークシート**※15を使った**アセスメントとプランニングと実践を通じた調整**を実施していただきました。フレームワークシートがあることで、情報の共有だけにとどまらず、ディスカッションの材料やうまくいっていない部分の再調整にもつながっています。

トピック フラッシュバックの対応

強度行動障がいを持つ方の中には、過去の経験を思い出して痼癪となるようなフラッシュバックを起こす方がいらっしゃいます。特に自閉症の特性を持たれる方は過去の経験をまるで今経験しているようにフラッシュバックを起こされます。頭の中の消せない記憶が要因ですので、支援としてもハードルが高くなっています。私のこの十数年での取組の中で皆さんにご提示できる3つのサポートを紹介します。

- ① 生活全般で活動の充実、生活シナリオの広がり具体化する
- ② 生活全般で「まずは○○」「終わったら次は○○」という情報を伝える
- ③ 生活全般で空間の境界、時間の境界を明確に伝える

この3つを実施すればすぐ状況が変わるわけではありません。しかし一番の近道です。

『**フレームワークを活用した自閉症支援**』について、詳しくはホームページ、SNS、YouTube等をご覧ください。

🔍 自閉症 フレームワーク 🔍 検 索



WEBサイト



YouTube

※15 **フレームワークシート** 書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』に掲載。